

## 企画展 実は広島2 ―モノづくり編―

会期：令和5年12月9日(土)～令和6年2月25日(日)

全国的に広く知られている企業や製品の中には、広島発祥であったり、広島が大きなシェアをもっておりしているものがあります。昨年度は、「実は広島～こんなご縁がありました(食べもの編)」を実施しましたが、その続編として、今回はモノづくり、特に鉄を中心とした産業に着目しました。展示を5つの構成にして、モノづくりの流れが分かるように整理しました。

まず、最初の1章では、今回紹介するモノづくりの源流を探るため、たたら製鉄を紹介しました。中国地方は古墳時代から鉄が生産されるなど、良質な砂鉄を産出する地域でした。江戸時代にはたたら製鉄業は一層盛んになり、鉄を利用した産業が花開きます。砂鉄の実物やたたら製鉄関連資料を通して、導入としました。

たたらを源流とする産業の一つが、2章で紹介した鑄物です。とりわけ製鉄業の盛んであった芸北地域(安芸北部)に近い可部では、江戸時代から鑄物産業が発達しました。江戸時代後半に活躍した可部の鑄物師三宅惣左衛門延政が作り、広島市指定重要有形文化財に指定されて今も可部に残る鉄燈籠が良く知られています。この鉄燈籠の型の一部は、広島市郷土資料館所蔵資料となっており、寄贈後の初公開を行いました。そして、鑄物産業で知られた可部地区にある大和重工株式会社は、現在日本で唯一、五右衛門風呂を製造しています。また、デザインマンホールで知られる友鉄工業株式会社も可部で活動しています。



▲広島市指定重要有形文化財指定の鉄燈籠  
(広島市安佐北区)の現状

## 目次

- |       |                             |     |                                       |
|-------|-----------------------------|-----|---------------------------------------|
| P 1-3 | 企画展「実は広島2 ―モノづくり編―」         | P 7 | 活動報告 教室事業日程一覧<br>(令和5年10月～令和6年3月分)    |
| P 3-4 | 企画展「歩いて楽しい、本通」              |     |                                       |
| P 5   | 企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」        |     | 活動報告 郷土史講座・その他事業<br>(令和5年10月～令和6年3月分) |
| P 5-6 | パネル展示「広島港のうつりかわり」           |     |                                       |
| P 6   | スペシャルイベント「クイズでたんけん! 昭和の暮らし」 | P 8 | 次年度企画展の予定                             |



▲鉄燈籠の型 当館所蔵  
「鋳物師(いもじ)」と書かれています。

五右衛門風呂やそれに関連した資料を通して、今も昔からの系譜を受け継いでいることが分かりました。

たたら製鉄の影響を受けて発達し、江戸時代から伝統的な広島モノづくりとして広島城下で下級武士の内職として作られていた産業の一つに針があります。3章では、針の歴史を江戸時代から現在まで時代順に紹介しました。広島の針が大きくシェアを伸ばしたきっかけが、明治後半に他の地域に先駆けていち早く機械化を導入したこと、第一次世界大戦の影響により欧州の針の流通が停止した折に販路を世界に広げたといった二点がありました。その後、原爆や不況などの影響を受けますが、今は広島の針は「広島針」という「地域団体商標(地域ブランド)」の認定・登録を受けて、特に縫針においては国内では広島のみで製造されています。針は消耗品であることから、古い資料は乏しいのですが、広島市内の遺跡から発掘された明治時代の針とその製作に使用する坩堝、大正期から昭和期、そして現在の針資料を、萬国製

針株式会社やチューリップ株式会社などの協力により紹介しました。

4章では、製針で培ったモノづくり技術を活かして、並行して多角的なモノづくりに取り組み、製針以外が主力となって成功をしている会社を紹介しました。針を作りながら、プッシュピン、虫ピンなどを製作する株式会社明光堂や株式会社横山セイミツ、値札ピンに付随する印刷業を経て現在は防犯用のタグなどを作っている元製針業者の株式会社三宅を紹介しました。

最後の5章では、こうした広島モノづくりを支える金物関係の様々な分野や多くの会社を代表して、二社を紹介しました。明治時代創業の株式会社熊平製作所は、広島を中心に金庫を製造する会社で家庭用から金融機関向けの金庫など高品質で信頼性の高い製品を手掛けており、郷土資料館の地元宇品に本社と工場があります。また、株式会社サンポールは、ポールの先端を回転させることで旗がからまないように工夫された画期的な旗ポールや、鳥が載っている形状の「ピコリーノ」に代表される車止めなどを製造しています。



▲明治時代の針商  
(『広島諸商仕入買物案内記』より) 当館所蔵



▲昭和30年代の針工場の様子  
(萬国製針株式会社 所蔵)

このように見てきた広島モノづくり産業をまとめると、チャレンジ精神旺盛な県民性をベースにし、江戸時代までの伝統と基盤に培われた技術力に創意工夫や独創性を加えて生まれていった、と評されると思います。これまでに知られていない広島モノづくり文化を、歴史的な流れを踏まえてわかりやすく紹介しました。(玉置和弘)

会期中の来館者数：2,084名



▲輸出針パッケージ（個人蔵）

## 企画展 「歩いて楽しい、本通」

会期：令和6年3月9日（土）～5月6日（月・振休）

展示担当者が子どものころ、よく流れてくるCMソングがありました。「♪今日は、楽しい、日曜日♪ おねだりぼうやの手を引いて～♪」と始まる軽快なメロディは「歩いて楽しい、本通っ！」と締めくくられるのです。これをヒントに、広島の人なら知らない人はいないだろう本通をテーマに展示を企画しました。

広島城下町の整備とともに、西国街道が広島城の南側に引き入れられた時から本通のあゆみが始まりました。西国街道の一部である本通筋は、広島城からの大手筋と交わり水陸の要衝地・中島本町とも近く江戸時代の広島の繁栄の様子を伝える「広島城下絵屏風」にもその姿がえがかれています。「本通」とは「メインストリート」の意で、意外にも昭和40年（1965）までは通称でした。

明治16年（1883）に出版されたガイドブック『広島諸商仕入買物案内記』には、城下町のなごりを残す店舗や文明開化の香りがする新しい店舗などが入り混じり、約250軒が紹介されています。そのうち、約4分の1を本通筋の店舗が占めていました。

大正元年（1912）の路面電車開通によって広島の繁華街が西の中島本町から東の紙屋町・八丁堀に移り、東西の繁華街を結ぶ本通がさらに賑わうこととなります。本通では、集客のために広島県物産陳列会（大正4年・1915）や昭和産業博覧会（昭和4年・1929）などのイベントに協賛するほか、本



▲企画展チラシ



▲本通にあった店のマッチ

通東の3町が結成していた「三栄会」と西の2町が結成していた「共盛会」が一緒になり、「本通会」が誕生しています。

本通をさらに栄えさせ、その象徴ともなったのが、大正14年(1925)のすずらん灯の設置でした。98基ものすずらん灯は、規模や明るさでも西日本一と言われ、さらに昭和3年(1928)に鑄鉄製の月桂樹の葉とすずらんの花をデザインしたものに改装されました。「本ブラ」とは、夜でも明るい本通をそぞろ歩くことを指し、多くの広島市民が楽しみました。



▲復興した広島本通 初代アーケード



▲本通商店街振興組合の法被、Tシャツ、本通アーケード幕、買い物バッグ

しかし昭和も10年代に入ると戦争の影が本通や市民生活にも忍び寄ってきます。店で売る品物にも事欠くようになっていき、昭和18年(1943)には金属回収令により本通のシンボルだったすずらん灯も、供出されることになりました。そして、運命の昭和20年(1945)8月6日の原爆投下で、爆心地に近い本通の建物や町にいた人々は壊滅状態となります。しかし、戦後は一日も早く本通の復活を図ろうと、昭和21年(1946)4月に「草分会」を結成、同6月には「広島本通商店街復興協議会」として取り組むことになりました。仮設店舗ながら少しずつ店も増え、「福引大売出し」など本通に人を呼び込むための策を打ち出し始めました。本通の復興の様子は、外国向けに広島の復興や被爆の惨状を伝えるグラフィ誌“LIVING HIROSHIMA”の中にも見ることができます。

昭和29年(1954)には、天候を気にせず買い物ができるアーケードが完成。ところが、翌年の大雪で倒壊してしまいます。再建されたのは昭和35年(1960)のことでした。多くの買い物客が行き交ったアーケードも、時とともに老朽化し、平成3年(1991)に現在の三階建てで当時日本一の高さを持つ「本通ドーム」に建て替えられました。

本通は多いときは1日に10万人もの人が通ります。そこでは、戦前の提灯行列から戦後の広島まつりなどのイベント、さらにはカーブ優勝の自然発生的なハイタッチまで、多くの人が集まる場でした。商店街でもマルシェの開催など様々な企画を行っています。そして、本通3丁目地区で立ち上がった新たな再開発事業は、これからの本通の新しい賑わいを生むことになるでしょう。

観覧された方々の本通の思い出が感じられる展示になっていれば幸いです。

(前野やよい)

# 企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

会期：令和5年9月9日(土)～11月26日(日)

童話『ごんぎつね』は、昭和55年(1980)以来小学校4年生のすべての国語の教科書に採用されている新美南吉の代表作であり、幅広い世代に親しまれている作品です。



▲展示のようす  
『ごんぎつね』のストーリーをたどりながら、「とる」「すまう」「つくる」などジャンル別に昔の道具を展示



▲ワークシート

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」は、平成13年度から当館の恒例展示として開催しており、国語科で学習する童話『ごんぎつね』のストーリーに沿って、小学校3年生の社会科の学習単元「昔の暮らしの道具と人々の暮らしの様子」で学ぶ昔の生活道具を紹介するものです。

展示は、物語の舞台でもある江戸時代終わり頃の農村での暮らしに使用されていた生活道具を中心に行い、登場人物の兵十が魚獲りに使っていた「はりきり網」や「魚籠」、行商で使われる「皿ばかり」や「大八車」、物語の最後に出てくる「火縄銃」などの実物の道具によって物語の世界をより身近に感じることができる内容となっています。また、昔の道具と現在の生活用具との違いや昔の人々の暮らし方など、道具を通して様々な発見をしていただける場となることを目的としています。

開催期間中は、学校団体での来場のほか、学校での学びをより深めるために来場した親子連れや、展示してある道具を実際に使用したことがあり昔を懐かしむシニア世代など、様々な世代にそれぞれの視点で楽しんでいただきました。

ただ、学校団体で来場された場合は展示解説を聞いて見学することが多いのですが、土日等に個人学習で来場された場合は個別に職

員の解説を聞くことが難しい為、各々で解説パネルを読んでもらう工夫が必要と感じていました。今年度は、会期中に小学生向けのクイズ形式のワークシートを作成し、土日の来場者に自由に利用してもらえるように設置したところ、多くの来場者に利用していただきました。ワークシートの利用により、更にしっかりと解説パネルに目を通してもらえたようです。

今後も、学校等の学習の一助及び来場される方の新たな発見の場となるよう工夫をしていければと思います。(寺田香織)

会期中の来館者数：4,540名

# パネル展「広島港のうつりかわり」

会期：令和5年9月9日(土)～11月26日(日)

今年度も、第六管区海上保安本部海洋情報部との共催で「広島港のうつりかわり」というタイトルで、明治時代から戦後までの広島湾岸を中心とした海図展示をおこないました。「海図」は航海に必要な水深、灯

台の位置、海潮流の速さや方向などが詳しく記載され、航海者にとって、船舶の安全で効率的な航海のために欠くことのできない大切なものです。「海図」は海上保安庁海洋情報部が作っています。

今年度（令和5年）にG7サミット（主要国首脳会議）が開かれたので、その時の海上保安庁の海の警備の様子の写真も展示されました。来館者の方は興味深そうに見ておられました。

また11月3日（金・祝）には、六管海洋情報部の方に海図の解説をしていただきました。（河村直明）  
会期中の来館者数：4,540名



▲海図を見る来館者



▲サミット時の警備の様子を説明する  
第六管区海上保安本部の職員

## スペシャルイベント

### クイズラリー「クイズでたんけん！昭和のくらし」

開催日：令和5年11月3日（金・祝）

文化の日にスペシャルイベント「クイズでたんけん！昭和のくらし」を行いました。

館内の展示物から10問の「昔のくらしのクイズ」を出題し、オリエンテーリングのように館内をめぐって、展示している実物を見て回答するイベントです。当日は多くの方に参加いただき、家族グループや友達同士で楽しそうに取り組んでおられました。

併せて、広島のお好み焼きのもととなった「一銭洋食作り」や「あったかわらび餅作り」を行いました。両方とも熱々の出来立てはとてもおいしいと大好評でした。クイズと駄菓子作りと試食で楽しい1日となりました。

コロナ渦で食べ物の行事は中止していましたが、令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が「5類感染症」に移行したことから、衛生に気を付けながら徐々に

元に戻していく予定です。（河村直明）

イベント参加者数：のべ691名

（クイズ：140名、一銭洋食：163名、わらび餅：145名、「海図」パネル展解説：243名）



▲文化の日スペシャル  
イベントのチラシ



▲「洗濯の歴史コーナ」の前で問題に取り  
組む参加者



▲「お好み焼き」のもととなった  
「一銭洋食」作りの様子

# 活動報告

令和5年10月～令和6年3月

## 教室事業

実施日	事業名	参加者
10月15日(日)	教室 「山まゆ糸でプレスレット作り」	15名
10月21日(土)	教室 「手すきハガキ作り」	14名
11月18日(土)	大人向け教室 「水引のかわいい小物作り」	15名
11月25日(土)	親子教室 「絵手紙で年賀状作り」	15名
12月17日(日)	教室 「けん玉教室」	20名
12月23日(土)	親子教室 「羽子板作り」	10組21名
1月20日(土)	親子教室 「チョコレートで花束を！」	8組18名
1月27日(土)	教室 「糸つむぎ体験」	19名
2月18日(日)	大人向け教室 「大人の染色体験」	20名
3月17日(日)	親子教室 「和菓子作り」	11組25名

## 文化の日スペシャルイベント (新型コロナウイルス感染症予防の観点から令和5年度も「駄菓子作り広場」は中止)

実施日	事業名	参加者
11月3日(金・祝)	クイズラリー「クイズでたんけん! 昭和の暮らし」、「一銭洋食作り」ほか	のべ691名

## ひろしま郷土史講座

実施日	事業名	参加者
2月3日(土)	第1講「広島市の針と仁方のやすり」	37名
2月10日(土)	第2講「広島市の中小企業支援について」	30名
2月15日(金)	社会見学・大和重工株式会社 「広島のカスタム産業」	20名

## その他の事業

実施日	事業名	主催等	参加者
10月19日(木)	授業「ひろしま未来学・宇品港一築港から終戦まで」	広島みらい創生高等学校	10名
11月4日(土)	講演「かがやき大学・広島のまちには歴史がうもれている～街中に「広島城」の時代を探そう」	公益財団法人広島市文化財団 ・藤の木公民館	22名
12月16日(土)	講演「郷土史講座・広島藩とその時代～浅野期の広島藩とあさみなみ～」	公益財団法人広島市文化財団 ・祇園公民館	72名
12月21日(木)	授業「文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 ・袋町小学校	39名
2月12日(月・祝)	講演「可部の鋳物 たたら製鉄から広島モノづくり産業の発展へ」	公益財団法人広島市文化財団 ・安佐北区図書館	68名
2月18日(日)	フィールドワーク「港町大河」	公益財団法人広島市文化財団 ・大河公民館	20名
2月28日(水)	授業「文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 ・幟町小学校	65名

# 令和6年度(2024) 企画展紹介

## 企画展 「デルタの三山ー比治山、黄金山、江波・皿山の今昔ー」

令和6年5月18日(土)～7月7日(日)

かつては広島湾に浮かぶ島で、その後陸続きとなった比治山や黄金山、江波山・皿山を取り上げ、陸・海・川の接点で生まれたそれぞれの山とその周辺の歴史や文化などを紐解きます。



比治山にあった御便殿(個人蔵)

## 企画展 夏休み おばけの博物館

令和6年7月20日(土)～8月25日(日)

夏に話題となる「おばけ(妖怪や化け物)の世界」を紹介するとともに、おばけを生み出した昔の人々の暮らしや思いも紹介します。昔の「おばけ屋敷」の疑似体験もできます。



狗賓(くひん)さん  
宇品島に伝わる伝説で天狗の一種

## 企画展 「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

令和6年9月7日(土)～11月24日(日)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーをまじえながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



ごんぎつねと昔の道具

## 企画展 「実は広島3 一日用品編一」

令和6年12月7日(土)～令和7年2月24日(月・振休)

全国的に広く知られている企業や製品の中には、広島発祥であったり、広島が大きなシェアを持ったりしているながら、そのことが案外知られていないケースがあります。今回の展示では、そうした事例の中から日用品に関わるものをご紹介します。



「強力フマキラ一液」広告(一部)  
昭和6年頃 当館蔵

## 企画展 「凶面で見える宇品陸軍糧秣支廠」

令和7年3月8日(土)～5月6日(火・振休)

旧宇品陸軍糧秣支廠のかつての姿を、缶詰工場・事務所棟といった建物や設備をはじめ、使用されていた道具、什器類など多岐にわたる凶面類から垣間見ます。



男女工休憩室正面屋上之飾之図(部分) 当館蔵

状況により、展示会期・教室事業等の変更または中止の可能性があります。  
あらかじめご了承ください。最新の情報は当館ホームページ等でご確認ください。

## ひろしま郷土資料館だより No.107

令和6年(2024)3月31日発行

編集・発行 (公財)広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 FAX (082) 253-6772

URL <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

